(一) 第710号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THE MIIKE　【毎月1・16日発行】　昭和37年(1962)6月16日　(土)

みんなの組織決定を
みんなで實行しよう
―反合理化 政策転換―
闘争勝利のために

七月一日の投票が目前に迫った。私たちは、政転斗争の事実上の推進として参議院選挙を斗っているが、これは粘り強い長期抵抗の斗いの一環として位置づけている。この時点に対し全力を結集して組織で決定した全国区・阿部、福岡地方区・高口、熊本地方区・森中の三候補を勝利させなければならない。さらに意志統一を固めるために、組合長を中心に座談会をひらいた。勝利めざしてがんばり抜こう！

高まる政治意識

渋田　三池では意義あるだけに苦しい抵抗斗争の中で参議院選挙という重大な斗いを迎えていますが、組合ではどういう構えと方針で斗いを進めていますか。

灰原　労働者階級が政治的な意識をもつということは、非常に難かしいことではないでしょうか。

なぜなら、苦しい毎日の生活の中で労働はひどいし、あきらめきったような形で暮すというのが、世界の労働者の共通の状態だったのですから……。

しかし、それを逆にいえばひとりひとりの労働者に政治意識をもたせないための政策が、資本の側には昔からあるからです。

渋田　三池では意義あるだけに苦しい抵抗斗争の中で参議院選挙という重大な斗いを迎えていますが、組合ではどういう構えと方針で斗いを進めていますか。

灰原　労働者階級が政治的な意識をもつということは、非常に難かしいことではないでしょうか。

なぜなら、苦しい毎日の生活の中で労働はひどいし、あきらめきったような形で暮すというのが、世界の労働者の共通の状態だったのですから……。

しかし、それを逆にいえばひとりひとりの労働者に政治意識をもたせないための政策が、資本の側には昔から政治斗争を非合法呼ばわりしており、労働者の政治活動にワクをはめようという動きは私たちが知っている通りです。

だが一面では、そういう攻撃の中で形だけは一票の権利が保障されたように見えても、国の政策の中では、全く無権利な状態の労働者が、やはり個々に政治的な自覚を高めてゆきます。

このことも、世界共通の歴史的な事実だろうと思います。

政治権力の不公正

渋田　それを端的にいえばどういうことですか。

灰原　それは三池斗争で久保さんが殺されたこと、安保斗争で樺さんが殺されたことを私たちは別のものとは考えませんでした。し、決して三井鉱山の経営上の問題だけでないと理解したはずです。

つまり私たちは、三池斗争を通じて政治権力の公正さがあまりにも欠如している

政策を身近かに感ずる

灰原　ここで私たちは石炭政策転換斗争をもう一度考える必要があります。

この政転斗争で政治の不公正と貧困とを、国民に強く訴えたことになったと思います。その結果、とにもかくにも池田首相に、直接石炭産業の現状をよりよく調査した上で、政府の根本的な計画を立て、それまでは首切りはしないといわざることができました。

そして、この斗争をただ陳情や抗議で進めたのではなく、無期限ストで労働者らしく斗ったことも周知の通りです。

六月八日いらいの石炭調査団の派遣で示されたことは新聞の報道ぶりをみても、石炭問題がいかに国民の関心と同情を得ているかがうかがえます。

石炭政策転換斗争は大正斗争の苦悩が示しているように、もちろんこれから具体化されるわけだし楽観などしているわけではありませんが、苦難にみちた抵抗をつづけ仲間の首切りにまで発展してきているという現実を訴えられますが、しかもその斗いの方針が炭労の政転斗争とよく似ていることは注目すべきでしょう。

この二つの例をみても、労働者階級は政治に対し、批判、あるいは政策転換要求として出ざるを得ない必然が出て来ます。

だから労働組合は経済斗争だけをすべきで、政治活動はしてはならぬというお説教は、労働者階級の政治的な発言と力りょうを強めることに重大な危険を感ずる独占資本の独善のあらわれであるということを証明しているわけです。

政治と組合運動

渋田　よくわかりました。ただマスコミは政治と組合運動は別だと盛んにいっていますが、三池の場合は確かに一本だと認識しましたし炭労もそれを認識して政策転換斗争がもり上り、しかも失対打切りに対して全自労もそういう条件に取組む態度をきめています。

それを考えると、組合が組織で決定した自分たちの代表を国会におくることは、重要な要素が生まれてくると思いますが……。

資本は抑圧する

塚元　たしかに全自労の皆さんはいち早く斗いに立上っています。

失対打切り反対斗争は日本の貧困な社会保障制度を、さらに拡充することになり首切り合理化が石炭労働者だけでなしに、失業者の首切りにまで発展してきているという現実を訴えられますが、しかもその斗いの方針が炭労の政転斗争とよく似ていることは注目すべきでしょう。

この二つの例をみても、労働者階級は政治に対し、批判、あるいは政策転換要求として出ざるを得ない必然が出て来ます。

だから労働組合は経済斗争だけをすべきで、政治活動はしてはならぬというお説教は、労働者階級の政治的な発言と力りょうを強めることに重大な危険を感ずる独占資本の独善のあらわれであるということを証明しているわけです。

批判グループ脱落の狙い

宮川　結局、組合が高度に成長すると、政治的な意識を高めてゆくことにつながるし、そういう意味で選挙に取組む姿勢もおそらく明確に出てくると考えますね。

三川で集団脱落（実数三四名）が出ていますが、この問題も今私たちが斗っている抵抗と参議院選に対して会社側が水をさすものと考えるし、むしろ政治から目を外そうとする向うの作戦の一端だと考えられます。

塚元　彼らは改革同志会という形で批判勢力を拡大するなどといっていますが、結局集団で第二組合に脱落したという事実で結論づけられた。

これは会社側の一方的な合理化に対しては、抵抗するか屈伏するかの二つの道しかないことを現わしています。

だからこの問題を、参議院選に対する邪魔だてだとして意識的にやられたという面を当然私たちも考えます。

民社党と第二組合

渋田　第二組合は民社党を支持していますが、民社党をどう考えていますか。

灰原　第二組合の選挙方針ですが、三池斗争を政治斗争だ、階級斗争至上主義だと批判しながら、今は自から労働者の生活を安定させるには政治的に結集しなければならない、とアピールし民社党を支持しているのはご承知の通りです。

しかしその民社党の西尾委員長が自民党と連立してもよいと発言して、内外の問題になりましたが、このことで端的に現われているように、いわゆる一方的な会社側の合理化攻撃には抵抗か屈伏かの二つの道しかないと同じように、現在の時点で労働者階級の立場に立つか、そうでないかの現実に立って、民社党は明らかに第二組合を利用し、独占資本の分裂政策に片棒をかついでいるところからみても、本当に労働者の代表などとは考えられません。

また、全労傘下全炭鉱の常盤炭鉱でも王子でも全く同じように民社支持は下部から粉砕され、社会党は勝利をしめた。幹部がいくら民社党支持をきめても、大衆はそれを支持していないのが実情です。

平和憲法を守れ

渋田　自民党は政暴法を出すとか、スト規制とか、憲法改正とか、大学自治の管理などを選挙の結果をみて立法化しようという反動性をロコツに見せていますが、そういう大きな意味で問題を総括的に話していただきたいと思います。

灰原　今回の参議院選は憲法改悪だとか、政暴法、私鉄関係のスト規制などと非常に直結しています。三池労組では先日「市民と労働者を一つに結ぼう」というパンフレットを出しましたが、あの中で触れているように物価値上げで儲けているのは大資本で、国民や労働者はどんなに苦労しているかそれと核実験がまた始められていますがそういう騒然たる情勢の中で、憲法とくに戦争放棄の条項や天皇制について自民党の改悪意図があまりにも明らかな現状の中で、どうしても参議院の勢力を社会党中心に三分の一をかちとり、一切の反動政策の基本になる憲法改悪の発議を阻止することは最重要です。

ちょうど労働者にとって一方的な合理化が一番大きな重荷になっているように、国民全体の立場からは、主権在民をくつがえして民主主義を破かいし、軍事費増額・物価値上げで苦しんでいる国民生活の上からも憲法改悪は一番大きな重荷になることはまちがいないのですから。

三池労働者の力を示そう

宮川　したがって、政府が一方的につくった憲法調査会の動きにてらしても、こんどの選挙が憲法改悪をめぐって非常に重要な意味をもっていることを、感じないわけにはいきません。

社会党が単独で三分の一を確保しようという決意に、われわれは全面的に賛成です。

私たちが一方的な合理化にはあくまで徹底的な抵抗を決意する気持は、憲法改悪を頂点とする国民の権利弾圧と戦争政策とをおしとめるために、こんどの選挙に一致結束して斗い抜くことは全く同じだと思いますこれは決して一つの政党を支持すればいいのだという押しつけではなく、私たちが三池斗争や政転斗争の実感から、政治と経済とが一致しているということを確認しているからで、具体的に社会党に集中して成果をあげるためなのです。

平和憲法を絶対に守ろうの合言葉で、とくに一方的な合理化を許さないという抵抗を、苦しい中でがんばり抜き効果をあげつつある三池労働者として、さらにこの組織決定を確認し実行したいと思います。

☆　☆

私たちの組織決定候補

阿部 竹松（全国区）
日本社会党、参議院議員　五十才
略歴
炭労政治局員
大夕張組合長
炭労中央執行委員長

高口 等（地方区福岡県）
日本社会党、福岡県議会議員　四十五才
略歴
九州炭労政治局員
福岡県総評政治局員
呉島大の浦労組組合長

森中 守義（地方区熊本県）
日本社会党、参議院議員　四十二才
略歴
全逓中央執行委員
熊本県総評議長

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 3033番 7140番
編集兼発行人 渋田紀生

あなたの貴重な一票があなたの生活を守り、戦争から守ります。